

**令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果**

京都市立山階小学校

校長 太田 由佳

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
今年4月に6年生を対象として実施された「全国学力・学習状況調査」の結果がまとまりました。この調査は、子どもたちの学力の一面を把握し、今後の指導の改善につなげることを目的として行われるものです。一部ではありますが、本校の結果から見えてきた子どもたちのよさや今後伸ばしたい力についてお知らせします。

総合結果（国語・算数）

本校の平均正答率は、国語70%（全国60.9%）、算数65%（全国56.4%）で、両教科とも全国平均および京都府平均を上回る結果となりました。

学習指導要領の各領域においても全てにおいて全国平均を上回り、これまで学習してきた内容がしっかりと身に付いていることがうかがえます。

また、記述式の問題では無回答率が低く、難しい問題に対しても最後まで粘り強く考え、自分なりの答えを書こうとする姿が見られました。このような学習に向かう前向きな姿勢は、本校児童の大きな強みであると考えています。

国語科より

国語科では、文章を読み取り、必要な情報を整理しながら自分の考えを書く問題で全国平均を上回る結果となりました。

例えば、問題文から必要な情報を引用して書く問題では全国平均を約19ポイント上回り、自分の経験と結び付けて考えを書く問題でも全国平均を上回る正答率でした。これらの結果から、文章の内容をもとに考えを広げたり、根拠を明確にしながら自分の考えを表現したりする力が育っていることが分かります。日頃から「なぜそう考えたのか」「どこを根拠にしたのか」を大切にしながら学習してきた成果であると考えています。

今後も、国語科の学習で身につけた資質・能力を他教科や日常の学習場面で生かしながら、文章や資料から必要な情報を整理し、根拠を明確にして自分の考えを表現する力をさらに伸ばしていきます。

算数科より

算数科では、計算や基本的な技能だけでなく、「なぜそうなるのか」を説明する問題で全国平均を上回る結果となりました。分数の大小を比較し、その理由を説明する問題では全国平均を20ポイント以上上回りました。また、資料をもとに考えたことを説明する問題でも全国平均を約18ポイント上回りました。これらの結果から、答えを求めるだけでなく、考え方や根拠を言葉や数を用いて説明する力が育っていることが分かります。日頃の授業の中で、自分の考えを伝え合う学習を大切にしてきた成果であると考えています。

今後も引き続き、答えだけを求めることを目的にするのではなく、その過程で自分の考えを根拠とともに表現したり、他者の考えを取り入れながら考えたりする活動を大切にしていきたいと考えています。そうした学びを通して、筋道を立てて考える力や、自らの考えを見直しながら学びを深める力を育成していきたいと考えています。

今後伸ばしていきたい力～学力調査の誤答分析より～

林さんが文章を読んで考えたことを友達と話し合う場で、話し合いの空欄に入る発言を選ぶ問題です。文章中の「苦手でも好きなこと」という筆者の考えを踏まえ、その考えに合う林さん自身の経験を選ぶことが求められました。

誤答の中では、「1」を選んだ児童が約 35%と最も多く見られました。この問題では、文章中の「苦手でも好きなことがある」という筆者の考えと、それに当てはまる経験結び付けて考える必要があります。正答の「3」は、「上手ではないけれど、絵をかくのは楽しい」という経験であり、「苦手だから嫌い」とは限らず、「苦手でも好きなことがある」という筆者の考えに合った例になっています。しかし、「1」を選んだ児童は、「苦手」と「好き・嫌い」の関係を十分に整理できず、「嫌い」という言葉に着目して選択したと考えられます。そのため、文章の中心となる考えと具体例との対応関係を捉えることに課題が見られました。

今後も引き続き、「どこにそう書いてあるのか」を意識しながら根拠を確かめて読むことや、友達と考えを交流しながら、文章の内容について理解を深めることを大切にしていきます。

数直線上で分数の位置を考える問題です。

この問題では、「 $5/3$ 」が示された数直線から 1 の位置を考える必要がありました。正解するためには、「 $5/3$ は $1/3$ が 5 つ分」という分数の意味と、数直線上の目盛りの関係を結び付けて考えることが求められます。

誤答としては、(イ)を選んだ児童が約22%いました。分数の意味そのものが理解できていないというよりも、数直線全体の関係を十分に確認せず、目盛りの位置だけに着目して判断したことが考えられます。つまり、『1 は $\frac{3}{3}$ である』ことは理解していても、数直線上で 0 を基準として目盛りを読むことが十分でなく、左端の目盛りから順に数えてしまったために『イ』を選択した可能性があります。

今後は、数の大きさや意味を図や数直線等を使って考え、与えられた条件を整理して判断する力を育てていきたいと考えています。

今回の調査結果から、本校の子どもたちは、自分の考えを表現したり、理由や根拠を筋道立てて説明したりする力を着実に伸ばしていることが分かりました。

一方で、全国平均をやや下回った上記の問題からは、文章や会話、図や数直線などに表された情報を丁寧に読み取り、それらの関係を正確に捉えながら考える力に少し課題が見られました。これは、表面的な情報だけでなく、その意味やつながりを理解しながら考えを深めていく力とも関わるものです。

今後も、子どもたちが様々な情報とじっくり向き合い、それらのつながりを考えながら、自分の考えを深めていく力を育んでいきたいと考えています。

小淵さん 「私は「二重き」を「二重」に読み、従来の文章が二に読んだんだ。この文章の
 中の「二」…… 形をさながらかきつけた。この部分に特に考えさせられたんだ。

小淵さん じゃあ二を考えたの。

小淵さん 「……部分のあとに二がついたの事柄が通じてくるでしょ。この二の事例を読んだら
 自分にも当てはまる部分があるよ。はてしなく、例えば、自分と置きかかると

小淵さん じゃあ、文章で自分の経験を話してあげて考えたらいい。

小淵さん さうなんだ。この文章を読んだら、これまでの経験にはない考えだ、わけあり
 の事柄が通じたよ。小淵さんは、どんな二を考えたの。

小淵さん たんは、この文章を読んだら、自分が書いている二で少しばかり二を考えた
 んだ。「書きかかるとしてもいい」という二もあるたり、「二重き」だけ
 読む二という二もあるんじゃないかなと思ってるけど、どう思う。

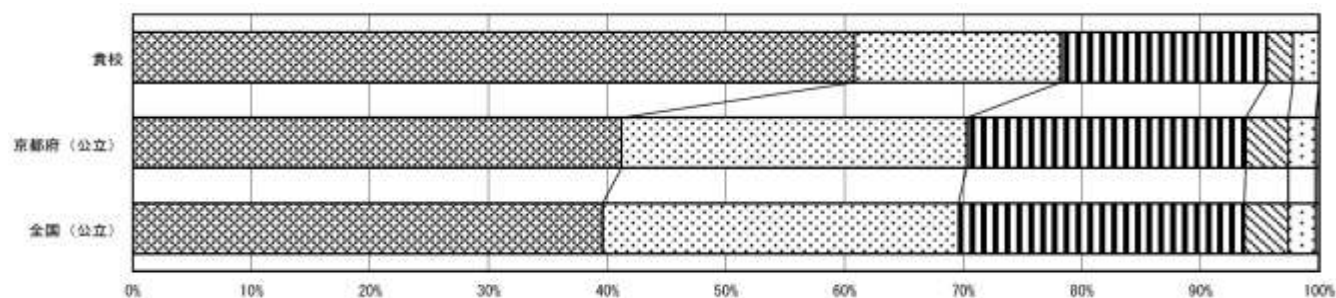
(1) 「二重き」の「二重」の にはどんな内容でも良い適切なものを、次のなかから4
 つの中から一つを選んで、その番号を書きなさい。

- 1 神入りの二重は通じやすい。昔の二の経験が
- 2 二重きで書きかかると、読者に伝わりやすい
- 3 二重きではないけれど、読者をわくわくさせる
- 4 二重きで書きかかると、読者が読むのをためらう

児童質問紙調査から

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答

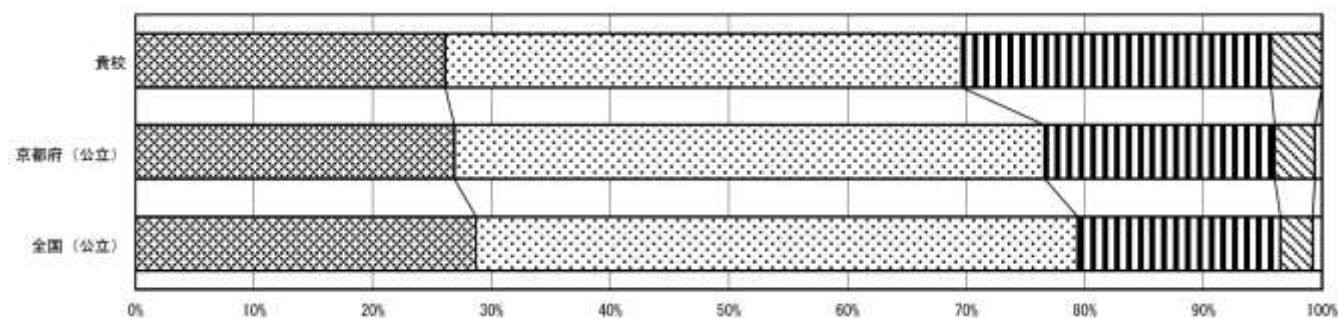
Q あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。



他にも、「自分にはよいところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」「学校や勉強のことについて、親や家族とどれくらい話すか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「学校に行くのは楽しいと思う」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」などの項目にも、肯定的に回答した児童が多くいました。こうした結果からは、子どもたちが安心して学校生活を送り、自分らしく過ごすことができている様子がうかがえます。また、自分の思いや考えを表現したり、困ったときには相談したりできる環境が築かれていることもうかがえます。学習においては、一人一人が自分の考えをもち、それを友達と伝え合いながら学びを深めていくことが大切です。子どもたちが安心して挑戦し、失敗を恐れずに学ぶためには、「自分は大切にされている」「自分の考えを受け止めてもらえる」という実感が欠かせないと思います。

今後も、子どもたち一人一人のよさを認め合い、安心して自分の考えを表現し、互いに学び合える学校づくりを進めていきたいと考えています。

Q 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



本校では、育成を目指す資質・能力の一つとして「自己調整力」を位置付けています。子どもたちが学びの主体者となり、自分に合った学び方を考えたり選択したりしながら学習を進められるよう、日々授業改善に取り組んでいます。今回の調査結果からは、学習内容の定着が見られる一方で、分からないことや詳しく知りたいことがあった際に、自分で学び方を工夫したり、学びを調整したりする力には、まだ伸びしろがあることも分かりました。

本校が育成を目指す「自己調整力」は、自分に合った学び方を考えたり、必要に応じて学び方を見直したりしながら学習を進める上で大切な力です。今後も、一人一人の子どもが主体的に学び、自ら学びを調整していけるような授業づくりを大切にしていきたいと考えています。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの力を伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。